

石之者此其日牛込の形可小善法福生口掃除了了又入府
以因承承及所承店豆腐店幸此方馬門見先也哉此
中乃ききす車辰政と喜門酒の流弊のたつをむけお信ま同
人陰莖出ぬを馬喰いふり切ぬはたのこ糸結と可波極子可也
し昔痛波の形と相見の同早速附葉お用綿の色はと高波
昔の糸丈夫と成古喰いききまし一陰莖を紙の色は其節一
同人様お見之十二歳小相成ゆきの糸う難可谷迄一宿と有之
世極子とい随ふ糸糸の他をり當人とい形中一はぬりぬは極
五石河内江邊之石陰莖拾有し筒石源に糸法為逆欠お
書居村之は哉親孫石備つて石始末し夕陰莖お陰の知父子也

此の字礼謝し由極事お知申す上

右之六月晦日掛の由見波不布恭内務御申す由

河之内堂令此事

宗善院は有馬場おと一可斗り申也宗善の
お地所承院也東也右子土俗のこ堂もいり此寺は古ひ
荒業のりし色はより老水の帆着おと櫻小くくくくく
以ふおおおお不覺お入陽の付の浅様とくおくくくく
修理をさせぬひしと也其後豊大園より黄金を流りて
寺の形もやきりり世世盛況西大徳の骨扱おのくくく

たぐはき法師を疎小に福をく果樹に所を殿
 下真ぶらゝのゝの宗易をたぐはき法師の頭はなり哉金
 小くつとよし有らばをたぐはき法師の頭はなり哉金
 法師をたぐはき法師の頭はなり哉金



懐海を有今小冊堂のうつゝゝ高
 手にたり今の名物小つゝゝ堂中
 下巻は是よりおちりて居る也

馬丸光廣の宗を治るゝのひ一財益山の石紙ひて捲く

捲く麻の上よりつねおきし信

大の世界九山八海

とつゝ杯をせむひ一也自筆今小冊堂の者是より冊石
 の名を九山八海とせむひ又同名乃石小冊堂の者有

政範考麻園守の九山八海の石小冊堂の

温知政要序 全

立より國を治め民を安く治るの道は仁小止る事是を我
 武門 族の家小生治るゝゝ荒子比末序小列り止生質疎
 懶のゝゝ文字小臨ゝの条玉ふあり一申奉府祇候の身